

論文剽窃チェックツールの活用による論文不正防止の意識向上と、e-learning 教育システムを用いた研究倫理教育の高度化への取組。



本事業のポイント

●世界の学術出版社と同じチェックシステム

世界の主なジャーナルが加盟しているCross Checkを利用した、Turnitin社の提供する論文剽窃チェックツールiThenticateを導入

- 平成26年度6月に当ツールの利用を開始
(導入時には学内3キャンパスで操作説明会を開催)
- 対象論文:ユーザー本人がこれから新たに発表する論文
→ 今後大阪大学から発表する論文の不正を防止することが目的
- 1人当たりの利用回数制限は設けない
- ユーザー登録の申請があれば、原則翌日には手続きを完了



iThenticateによる剽窃チェック

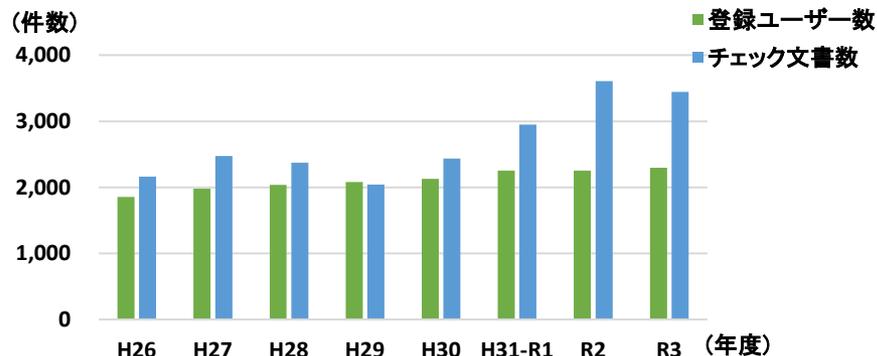
自己剽窃の防止
共著・引用部分の正当性の確認

●研究倫理教育の高度化

全学的にe-learning 教育システムを活用



取組実績と得られた成果



自己剽窃や共著者の剽窃防止につながるだけでなく、論文投稿時のマナーを再確認させると共に、筆頭著者、責任著者の当該論文に対する責任を認識させるなど、論文執筆に際しての研究倫理意識の醸成に役立っている

登録ユーザー数とは
iThenticateに登録したユーザーの数を指す

チェック文書数とは
文書カウント数を指し、アップロードされた1ファイルに含まれる文字数により実文書数が決定される



今後の課題

- 引き続きツールを利用し、研究者の倫理意識の向上を目指す
- ツールの利用促進を図り、ユーザー数及びチェック文書数を増加させる